



◀大地に広がる菜の花畑に黄色い歓声

今年も笠岡湾干拓地に菜の花が満開となりました。昨年の菜種油に続き、今回は「菜の花ハチミツ」を作ろうと、4月上旬にはミツバチの巣箱が設置されました。

そして、4月23日には、「菜の花満開イベント」と銘打って、干拓の新鮮な野菜・果物の販売や、ヘリコプターの遊覧飛行、国体を盛り上げるためのフリースロー大会などが行われ、終日たくさんの人でにぎわいました。なかでも、ハチミツ採取の実演と体験のコーナーでは、恐る恐るハチの巣箱を持ち上げながらも、遠心分離器から新鮮なミツが絞られると、みんな感嘆の声を上げていました。



4月16日、笠岡魚市場で笠岡の春の風物詩「鯛の浜焼き」が始まりました。

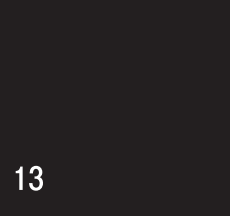
鯛の浜焼きは、笠岡諸島沖で捕れた真鯛に、秘伝の塩水を注入した後、特性の伝八笠に包んで蒸し焼きにして作られます。

今年は水温が低いため、水揚げは昨年の7割程度と少なく、初日の出荷は15匹で、5月末までに約200匹を販売する予定です。

この鯛の浜焼きは、主に贈答用として京阪神・東京方面に送られます。

▶笠岡の春の風物詩

「鯛の浜焼き」



◀うつろ舟に願いを込めて…

4月10日、北木島では「流し雛」が行われました。雛を流す前には、笠岡諸島開発総合センターで、笠岡諸島の特産品の販売や、流し雛の紙芝居、雛づくり教室などが行われ、ツアー観光客を含めたたくさんの人たちでにぎわっていました。そして、正午前に会場を大浦海岸へ移し、地元小学生などの「ひなまつり」コーラスの後、みんなで一斉に12体の紙雛を乗せたうつろ舟を海へ流しました。

この流し雛は、北木島の伝統行事で市指定重要無形民俗文化財。毎年、旧暦の3月3日に近い日曜日に開催されています。



▶国体を前に準備万端!!

国体開催を10月に控え、国体推進室が国体推進課となり、拠点も旧J A倉敷かさや笠岡駅前支店へ移しました。

4月11日には、開所式が行われ、事務所前の看板などを作成してください。また「お話し会」の高橋卓志会長から、市長へ「国体推進課」と書かれた表札が贈呈されました。

今後とも、「晴れの国おかやま国体」の推進のために、市民の皆さんのご協力をよろしく願います!

